

γ Cas は遠距離にあるため星間吸収線が見えますが、太陽に近いベガには見えません。この図には示してありませんが、 γ Cas のスペクトルでベガのスペクトルを割り算すれば、大気吸収線を消してしまうこともできます。この図の場合はそれをしなくてもナトリウムの吸収線を測定できます。予備的な計算を行なった結果、ベガ

のナトリウムの量は太陽にほぼ等しいことがわかりました。

今あげたのは最近可能になった精密恒星分光学の実用のほんの一例です。今後観測技術とデータ解析の技術が進歩すれば、ますます多くのおもしろい結果が期待できます。

学会だより

日本天文学会 1989年秋季年会記事

1989年秋季年会は10月17日(火)~19日(木)の3日間、福岡県宗像市の宗像ユリックスでA・B2会場を併用して開催された。

口頭発表による講演数は、A会場が121、B会場は126で、出席者は360名であった。なお座長は次の方々をお願いした。

	A会場	B会場
11日 午前	家 正 則	中野 武 宣
午後	坂下 志 郎	福井 康 雄
	土 佐 誠	海部 宣 男
12日 午前	小杉 健 郎	牧 田 貢
午後	大師堂経明	石田 蕙 一
	平 林 久	松 岡 勝
13日 午前	岡村 定 矩	伊 藤 直 紀
午後	佐藤 勝 彦	野 本 憲 一
	高 原 文 郎	加 藤 正 二

ポスターによる発表は Post dead-line paper 1件を含めた40件で、19日午前11時30分から約30分間ディスカッションの時間帯を設け、討論が交わされた。

◎公開講演

会期1日目の講演終了後、17時30分から中高生を対象にした公開講演会が開かれた。講師は国立天文台教授の小平桂一氏で、「宇宙創生の謎に挑む——世界最大7.5m望遠鏡の観る宇宙」と題して、宇宙のこと、星のこと等を総括的に分かり易く説明された。予定時間を越えた講演にも、一般市民を含めた600名の聴衆は最後まで熱心に聴き入っていた。

なお、この講演会を含めた年会開催に際して、宗像市から多大のご援助をいただいたことを特に付記して、感謝の意を表します。

会期中、17日昼には内地留学奨学金選考委員会、19日昼には理事会が開かれた。

懇親会は18日夜5時30分から、当会場1階ギャラリーで開催され、210数名の参加で盛会であった。

この懇親会には、宗像市長代理として総務部長、福岡教育大学々長、同事務長、ユリックス館長の方々のご来席をいただいた。

また会期中に9つの懇談会・研究集會が行われた。

賛助会員のための展示コーナーには、(株)ニュートリノ、東通産業(株)の2社が参加した。

◎記者会見

秋季年会開催に先きだち、10月16日(月)14時より宗像ユリックスにて記者会見を行い、主に次の2点について解説をした。天文学会からは、司会進行役として理事長(小暮智一)庶務理事(吉澤正則)が出席した。

○公開講演会:「宇宙創生の謎に挑む——世界最大7.5m望遠鏡の観る宇宙」には小平桂一が対応した。

○年会一般講演: A36/37は主に戎崎俊一氏、A75は家正則氏、B84は満田和久氏がそれぞれ対応した。出席報道機関は、朝日、毎日、読売、サンケイ、福日の5紙で、その内容は年会期間中に報道された。

なおこの記者会見には、来賓として宗像市長が列席された。

日本天文学会欧文報告投稿料改定のお知らせ

日本天文学会欧文報告(PASJ)の投稿料(ページチャージ)を、第42巻第1号印刷分より、次のように改定いたします。

投稿料=3,600p+15,000A+カラー実費(円)

ここで、p=頁数、A=アート紙頁数(写真または2色刷の頁)、第3項はカラー製版および印刷にかかる経費でフルカラーの場合約110,000円/頁。この公式はレター論文にも適用されます。なお別刷代金は従来どおり、10pn(円; n=部数)です。

この改定は、長い論文の投稿料が高くなりすぎる従来の方式を改善したものです。pの係数3,600は13~20頁の論文でほぼ従来と同額(±10%)、かつ投稿料収入の総額を増減なく保つように定めました。

会計理事・小杉健郎

欧文報告編集長・小平桂一